

僕は白球を追う

VOL 3

ルーキー編
<入団1年目>

「人間としての成長が一番大切」

41 投手 高原 和弘

大学の時に東都3部で優勝した。そして、エースとして臨んだ2部との入れ替え戦。8戦行い1度も勝てなかつた。勝つた相手チームからは何人もNPBに入つたという。「悔しかつた。もう一度リベンジしたい」。その思いが支えている。

大学4年の秋から調子を崩した。「精神的に軽くイップス気味になりました。マウンドに立つと、思うように身体が動かなくなりました」という。「それは今もやや続いており、ピッチングはまだまだ今は相手といふよりも自分と闘っています」。自分と真正面から向き合い、「私は野球選手ですが、その前に『社会人です』、これが根幹にある『人間としての成長を一番大切にしたい』。それが野球の自信にもなると言いつけるかを考えながら取り組みたい」。既に後期のテーマも決めている、真っすぐに前を見つめる好青年である。

「野球と純粋に真摯に向き合う」

75 投手 正田 樹

(平成26年5月30日入団)

群馬・桐生第一高で夏の甲子園を制覇。その年のドラフトで日本ハムから1位指名を受け入団し、見事新人王に輝いた。以降、阪神を経て台湾に渡り最優秀防御率を獲得したが、渡米しボストンレッドソックスとマイナー契約。国内に戻りBCリーグで投げた後、ヤクルトを経て再び台湾球団に。そして、バイラーツにやって来た。

波乱万丈とも言える野球人生だ。「何がそこまで野球に駆り立てるのか」との質問に、正田は「野球が好きだし、もっと野球がしたい。まだまだ上手くなりたい」と答える。野球と真摯に向き合ふその意思は誰よりも純粋で力強い。

「成功して母と暮らせる家を建てたい」

45 投手 バレンティン(ホセ・バレンティン)

(平成26年5月30日入団)

幼い頃から野球選手を目指した。「多くのドミニカ人は物ついでに野球選手を夢見ます。それが、苦しい生活から抜け出せる唯一の方法」と話す。「成功して働き者の母と一緒に暮らせる家を建てるため、バイラーツに入団しました。私が家族の希望の星なんです」。

ドミニカにあるカープ野球アカデミーを経て徳島ISに2年間在籍。そのMAX150キロ超の速球とスプリットは今すぐにでもNPBで通用するとの評価だ。自ら「速球は一番自信がある」と胸を張る。「责任感が強すぎることと完璧を求めることが課題とし、「神と自分を信じ、プラス思考でそれを乗り越えます。神が私の道しるべです」と、信仰心は人一倍強い。

同じ母国出身でチームメイトのサンフレール投手が初勝利を飾った時、誰よりも喜んだのはバレンティンだつた。ベンチでも常に話しかけアドバイスする。「いい仲間に囲まれて幸せです。頑張ってチームを優勝に導きたい。それが自分の夢であるNPBに近づく最短の道だと思います」。

趣味は料理。「今は家族とチャツツする時が楽しい」と白い歯を覗かせる。

DATA

1987年8月4日生/26歳/ドミニカ共和国出身
リセオダニエラカステリオ高~広島東洋カープドミニカ
アカデミー~徳島インディゴソックス 191cm 91kg/右投右打

DATA

1981年11月3日生/32歳/群馬県出身
桐生第一高~日本ハム~阪神~興農ブルズ(台湾)~ボストン・レッドソックス(マイナー)~新潟アルビレックスBC~東京ヤクルト~Lamigoモンキーズ(台湾) 188cm 90kg/左投左打

DATA

1987年8月4日生/26歳/ドミニカ共和国出身
リセオダニエラカステリオ高~広島東洋カープドミニカ
アカデミー~徳島インディゴソックス 191cm 91kg/右投右打

DATA

1987年8月4日生/26歳/ドミニカ共和国出身
リセオダニエラカステリオ高~広島東洋カープドミニカ
アカデミー~徳島インディゴソックス 191cm 91kg/右投右打